

## 「環境イノベーションの時代」

代表取締役会長

秋草 五之丞



地球環境の保全が、喫緊の課題として全世界的なテーマとして大きく取り上げられるようになってきております。これは、環境保全が、単に一企業の存続ということから、経済社会そのものの存続に関わる課題というレベルになったということに他ならないと考えています。この地球環境の保全には、従来の延長線上の改善だけではなく、大きなイノベーションが求められると考えております。

そして、地球環境保全のためには、ITの役割は今まで以上に大きくなっていると考えております。一つは、ITの活用に伴う環境負荷を低減することです。ITの活用が広がるにつれ、その消費電力低減やリサイクルはもちろんのこと、IT機器の製造に関わる環境負荷の低減も大きなテーマです。かつて日本の自動車メーカーが、当時不可能といわれたマスキー法をクリアしたことが、その後の飛躍につながったように、イノベーションは、企業のコスト要素を新しい価値に変革する力を持っています。

もう一つは、ITで社会の環境負荷低減を実現することです。ITの活用によって、交通渋滞の軽減、輸送負荷の低減、ペーパーレスの推進といった直接的な環境貢献はもちろんのこと、センサーシステムなどによる環境監視や、企業の環境マネジメントシステムの構築など、その役割は非常に大きいと考えています。

富士通グループは、「ITの環境負荷を低減し、ITで環境負荷低減に貢献する」ことを目標に、ITの地球環境における役割をさらに高めていきたいと考えております。

### 新しい環境活動への取り組みをスタート

このような認識のもと、2007年度より富士通グループでは、「富士通グループ環境方針」を実践するための行動計画として、「第5期富士通グループ環境行動計画」を掲げ、より高いレベルの目標に向けて、新たな取り組みをスタートしました。

大きなテーマは、製品の環境負荷の低減です。環境対応のトップランナーをめざしたイノベティブなスーパーグリーン製品をさらに拡充していくこと、そして、環境ソリューションを拡充することにより、ITで環境負荷低減する役割を拡大していきます。そして、地球環境保全として、CO<sub>2</sub>の削減を大きな目標として取り組んでまいります。

富士通の環境への取り組みは、1935年の創業以来のものです。「自然と共生する“ものづくり”」という考えのもと、長年にわたり、環境保全をコストとして捉えるのではなく企業のバリューとして捉えるという姿勢で改善と工夫を重ね、さまざまな取り組みを行ってまいりました。常に新たな課題に挑戦し続けることを通じて、ITに関わる企業として、環境分野で新しい価値を生み出してきたと認識しております。

富士通グループでは、今後とも環境への取り組みに注力し続けて、「地球環境との調和」を企業文化として、より一層深くグループ全体に根付かせていきます。

## 「人が主役の IT活用をめざします」

代表取締役社長

黒川博昭



ITは、その進歩を通じてさまざまな可能性を実現し、お客様の経営や社会を支える欠くべからざるインフラとなってきました。富士通グループは、このITを企業や社会、生活のなかでもっと役立てるためには、“人の知恵”をもっともっと活かすことが重要だと考えます。そのための新しい提案が「フィールド・イノベーション」です。

フィールド・イノベーションの実現にあたっては、まず、お客様の課題を見出し、解決のための対象領域を「フィールド」として設定します。そして課題解決のために、そのフィールドの構成要素である「人の役割」「業務のプロセス」「IT」の「見える化」が必要です。見えないものは、改善できません。人やプロセスやITを見える化できれば、そこに関わる人々の知恵を活かした改善が可能になります。この継続の中で、ITの役割を見直していけば利用価値をさらに高めることができます。人を主役にして、業務のプロセス、そしてITを継続的に改善していきましょう、そういう企業体質を一緒に作っていきましょう、というのが私たちの提案なのです。

もちろん、富士通グループが、お客様にフィールド・イノベーションを提案していくためには、まず私たち自身が、フィールド・イノベーションの実践を不断に続けていかねばならない、と認識しております。

たとえば、環境負荷低減も、一つの大きなフィールドだと捉えることができます。環境負荷低減に関わる人やプロセス、ITを見える化し、人の知恵を活かしながら改善をしていく。こうした

環境への取り組みを通して、お客様の環境負荷低減に貢献していきたいと考えています。

さらに、誰もがIT社会に参加できるよう「人に優しく」を追求することも私たちの製品開発のフィールド・イノベーションのテーマになります。これから、ITが社会に浸透すればするほど、その利便性をより多くの人が享受できるようにすることは、私たちの大きな役割であると認識し、「もっとわかり易く、もっと親切に、もっと見易く、もっと簡単に」をめざしてユニバーサルデザインの取り組みを推進してまいります。

富士通グループはこのフィールド・イノベーションを通じて、人の知恵を活かし、企業、社会、生活の活動の場のプロセスとITを継続的に改善していくという「人を主役にしたIT活用」をめざし、企業活動や社会、生活の場に革新を起こしていきたいと考えています。

そして、これは、富士通グループが、従来のIT中心の課題解決から、ビジネスそのものの課題解決へ向かうということでもあります。そのためには、フィールド・イノベーションを実践できる素養とスキルをもった人材の育成とともに、「一人ひとりが主役」として責任と意欲を持ち、「お客様起点」で考えて行動することが強く求められます。今後より一層、人材の育成に注力してまいります。

このような取り組みを通じて、今まで以上に、お客様の事業課題の解決に貢献して、お客様とともに成長していきたいと考えています。